

平成29年度
シラバス
〔2学年〕



北海道枝幸高等学校

シラバス目次

2 学年必修（12 科目）

現 代 文 B	 2 ページ
古 典 A	 4 ページ
世 界 史 A	 6 ページ
数 学 II	 8 ページ
数 学 B	 10 ページ
物 理 基 礎	 12 ページ
生 物 基 礎	 14 ページ
体 育	 16 ページ
保 健	 18 ページ
コミュニケーション英語 II	 20 ページ
英語表現 I	 22 ページ
家 庭 総 合	 24 ページ

平成29年度 学年別教育課程表

	1 年	2 年	3 年								
1	国 語 総 合	現 代 文 B	現 代 文 B								
2		古 典 A	世 界 史 B								
3											
4											
5	地 理 A	世 界 史 A	地 理 B								
6											
7	政 治 ・ 経 済	数 学 II	倫 理								
8	数 学 I		体 育								
9											
10											
11	数 学 A	数 学 B	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 英 語 III								
12											
13											
14	化 学 基 礎	物 理 基 礎	選 択 1								
15	体 育	生 物 基 礎						化 学 研 究	生 涯 ス ポ ー ツ	英 語 講 読	情 報 処 理
16											
17		体 育	選 択 2	社 会 教 養	物 理 研 究	生 物 研 究	簿 記 (* 5)				
18	保 健										
19	音 楽 I										
20		保 健									
21	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 英 語 I	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 英 語 II	選 択 3	国 語 一 般	科 学 と 人 間 生 活		子 ど も の 発 達 と 保 育				
22											
23											
24	家 庭 総 合	英 語 表 現 I	選 択 4	国 語 表 現	数 学Ⅲ (* 1)	数 学 研 究 (* 3)	音 楽 II				
25											
26											
27	社 会 と 情 報	家 庭 総 合	選 択 5	地 理 研 究	数 学Ⅲ (* 2)	数 学 研 究 (* 4)	簿 記 (* 6)				
28											
29	総 合	総 合							総 合		
30	LHR	LHR	LHR								

「数学Ⅲ」は(*1) 3単位、(*2) 2単位の併せて5単位を履修

「数学研究」は(*3) 3単位、(*4) 2単位の併せて5単位を履修

「簿記」は(*5) 3単位、(*6) 2単位の併せて5単位を履修

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
国語	現代文B	2	必修	2	

使用教科書		東京書籍「新編現代文B」		使用副教材	東京書籍「新編現代文B 学習課題ノート」 第一学習社「意味から学ぶ頻出漢字 300」	
科目の目標		近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、言語文化に対する関心を高め、人生を豊かにする態度を育てる。				
学習の到達目標		1 文章についての発展的な知識を身に付け、簡単なテーマの小論文が書ける。 2 批判的な視点からものの見方を身に付け、自分の意見をより深めることができる。 3 漢字と語句について知識を深め、適切に使用・活用ができる。				
学習の進め方		・文章の要旨を的確に捉え、それについて深く考察する。 ・自己の意見や考え方について様々な視点や知識を加えた上で再考し、発表する。 ・様々な表現を用い、自分の意見がより伝わるように工夫して文章を書く。				
学習の留意点		・授業規律をしっかりと守り、集中して積極的に授業に参加すること。 ・ノートを活用できるように板書をし、提出物は期限までに必ず提出すること。 ・教科担任の説明と指示・級友の発表を集中して聞くこと。 ・意見発表・グループ活動などには特に真剣に取り組むこと。				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	評価の観点	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、自己の考えを言葉や文章で表現するため、主体的に活動しようとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり、的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴や決まりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
	比重	20%	20%	20%	20%	20%
	評価方法	○関心・意欲・態度…課題に取り組む姿勢などをレポートや日々の授業の中で評価する。 ○話す・聞く能力……日々の授業での取組で評価する。 ○書く能力……………定期考査や日々の授業での取組、ワークシート等での取組で評価する。 ○読む能力……………日々の授業での取組で評価する。 ○知識・理解……………定期考査や小テストなどで評価する。				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査			
														前期		後期	
														中間	期末	中間	期末
随想 心、言葉、きずな	8																
評論 「ふしぎ」ということ	67																
小説 山椒魚	90																
言語活動 文学的文章を読んで話し合う	338																
随想 さくらさくらさくら	14																
評論 安心について	124																
小説 山月記	212																

単元名と単元内容	配当 時間	学習内容・学習のポイント	評価規準					備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	e	
漢字・語句に関するテスト	通年	毎時間、冒頭で漢字・語句に関するテストを実施する。					○	読み3問、書き7問、計10問の小テストを実施し、7点以下の場合は間違えた問題の答えを裏面に5回ずつ書いて提出する。
随想 心、言葉、きずな	8	筆者の意見を踏まえた上で『人間とは何か』について考察し、発表する。 様々な意見を聞いた上でさらに自分の考えを深め、文章にまとめる。	○	○	○			単元終了時に400字意見文を書く。
評論 「ふしぎ」ということ	10	筆者が問題としていることとその答えとしていることを的確に読み取り、その内容について考察し、発表する。 グループ毎に発表の後、各自でその内容についてさらに考察し、意見交換をする。	○	○				単元終了時に、筆者が提示する問題点とその解決案について捉えた上で意見文を書く。
小説 山椒魚	12	山椒魚と蛙の関係についての的確に読み取り、山椒魚の心情の変化について考察し、発表する。	○	○		○		心情の変化とそのきっかけについて捉え、根拠を持って説明するための文章を書く。
言語 文学的文章を読んで話し合う	8	文学的文章について登場人物の心情や生き方、効果的だと思われる表現などに着目し、それを踏まえた上でグループ討議をする。	○	○				心情の変化に関係する表現に着目し、その効果について適切に説明する文章を書く。
随想 さくらさくらさくら	8	本文の内容を踏まえた上で「日本人特有の感覚」について考察し、自分の意見を文章にまとめる。	○	○			○	単元終了時に800字の意見文を書く。
評論 安心について	10	筆者の話題の切り口に注目し、決められたテーマについて自身の知識や経験を基に訴求力のある文章を書く。	○		○		○	単元終了時に、筆者が提示する問題点とその解決案について捉えた上で、自己の経験や知識に基づいた文章を書く。
小説 山月記	14	特徴的な表現やセリフなどから登場人物の心情を読み取り、多岐にわたる行動の選択と結果の予測の中で葛藤する人物の心情を考察する。	○	○		○		登場人物について心情の変化とそのきっかけを捉え、根拠を持って説明するための文章を書く。

評価規準：a 関心・意欲・態度 b 話す・聞く能力 c 書く能力 d 読む能力 e 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
国語	古典A	2	必修	2	

使用教科書		第一学習社「高等学校 標準古典A物語選」		使用副教材	第一学習社「学習課題集 標準古典A物語選」	
科目の目標		古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。				
学習の到達目標		1 古文・漢文に用いられている語句の意味、用法を理解し、その特有の表現を味わうことができる。 2 文章や作品にあらわれた思想や感情を的確に読み取ることができる。 3 我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。				
学習の進め方		・古文特有のリズムになれるため、くり返し声に出して読む。 ・単語の意味を理解しながら口語訳を行う。 ・作品の場面、作者の考え方を読み取る。				
学習の留意点		・授業規律をしっかりと守り、集中して積極的に授業に参加すること。 ・ノートを活用できるよう板書を取り、提出物は期限までに必ず提出すること。 ・教科担任の説明と指示・級友の発表を集中して聞くこと。 ・意見発表・グループ活動・感想文等の執筆には真剣に取り組むこと。				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	評価の観点	古典を進んで学習し、伝統的な言語文化について理解を深めようとしている。			古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。	古典を読むために必要な語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けている。
	比重	20%			40%	40%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・授業・課題に取り組む姿勢で評価する。 ○読む能力・・・・・・定期考査・授業プリント・ノート・授業での発言内容で評価する。 ○知識・理解・・・・・・定期考査・授業プリント・ノート・授業での発言内容で評価する。				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査			
														前期		後期	
														中間	期末	中間	期末
古文 用言の活用																	
古文 『竹取物語』 火鼠の皮衣	13																
古文 『竹取物語』 帝の求婚	16																
古文 『枕草子』 春は、あけぼの	50																
古文 『枕草子』 中納言参り給ひて	54																
漢文 故事・寓話「助長」	154																
漢文 故事・寓話「水魚之交」	158																
古文 『伊勢物語』 「初冠」	24																
古文 『徒然草』 よろづのことは頼むべからず	44																
古文 『源氏物語』 光る君誕生	104																
古文 『源氏物語』 若紫	111																
漢文 故事・寓話「死諸葛走生仲達」	164																

単元名と単元内容	配当 時間	学習内容・学習のポイント	評価規準			備考
			a	d	e	(到達目標・評価の観点・留意点など)
古文 用言の活用	8	内容理解に役立つ用言の活用を学習する。	○		○	・用言の活用ができる。
古文 『竹取物語』火鼠の皮衣	7	・昔話としてなじみのある作品を読んで古文に親しむ。 ・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・助動詞「けり」「ず」を理解する。	○	○		・現代仮名遣いに留意して文章を音読できる。 ・重要語句の意味を理解している。 ・和歌の修辞技巧を理解している。 ・助動詞「けり」「ず」を理解している。
古文 『竹取物語』帝の求婚	7		○	○		
古文 『枕草子』春は、あけぼの	4	・随筆を読んで作者の思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。 ・助動詞「つ」「ぬ」「たり」を理解する。	○	○	○	・『枕草子』について、文学史上の基本的な知識を持っている。 ・現代仮名遣いに留意して文章を音読できる。 ・形容詞・形容動詞の活用ができる。
古文 『枕草子』中納言参り給ひて	4		○	○	○	
漢文 故事・寓話「助長」	4	・漢文を読むための規則を理解し、故事成語の意味を理解する。	○	○	○	・繰り返し本文を読み、正しく音読することができる。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改めている。 ・登場人物の性格・人物像、話の背景をつかんでいる。
漢文 故事・寓話「水魚之交」	6	話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	○	○	○	
古文 『伊勢物語』「初冠」	8	・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・歌物語における和歌の役割を理解する。	○	○		・現代仮名遣いに留意して文章を音読できる。 ・重要語句の意味を理解している。 ・和歌にこめられた感情を読み取っている。
古文 『徒然草』よろづのことは頼むべからず	4	・随筆を読んで作者の思想や感情を読み取り、人間、社会などについて考察する。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。	○	○		・現代仮名遣いに留意して文章を音読できる。 ・重要語句の意味を理解している。 ・『徒然草』について、文学史上の基本的な知識を持っている。
古文 『源氏物語』光る君誕生	6	・長編物語を読んで、話のおもしろさを理解する。 ・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・古文の敬語表現を理解する。 ・助動詞「む」「る・らる」を理解する。	○	○	○	・現代仮名遣いに留意して文章を音読できる。 ・重要語句の意味を理解している。 ・登場人物の行動と心情を読み取っている。 ・長編物語に接し、積極的に内容を理解しようとしている。
古文 『源氏物語』若紫	6		○	○	○	
漢文 故事・寓話「死諸葛走生仲達」	6	話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	○	○	○	・繰り返し本文を読み、正しく音読することができる。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改めている。 ・登場人物の性格・人物像、話の背景をつかんでいる。

評価規準：a 関心・意欲・態度 b 話す・聞く能力 c 書く能力 d 読む能力 e 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
地理歴史	世界史 A	2	必修	2	

使用教科書		実教出版「世界史 A」		使用副教材	浜島書店「アカデミア世界史」
科目の目標		世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代社会の特質を広い視野から考察する。また、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習の到達目標		自然環境と人類の関わり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史に関わる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付く。			
学習の進め方		諸地域世界の形成、交流と再編、結合と変容について理解を促し、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史に関わる適切な主題を設定し、考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高める。			
学習の留意点		必ず黒板の内容はノートに書き写し、教員の話をしっかり聞くこと。また、説明がわからない時や、漢字が読めない時など、困った場合は遠慮せずに質問すること。わからないままにしておくことは、授業についていけなくなる原因になる。			
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうしている。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
	比重	10%	30%	10%	50%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・課題に取り組む姿勢などをレポートや日々の授業の中で評価する。 ○思考・判断・表現・・・定期考査や日々の授業での取組、ワークシートなどでの取組で評価する。 ○技能・・・・・・・・・・定期考査や日々の授業での取組、グループ発表などで評価する。 ○知識・理解・・・・・・・・定期考査や日々の学習課題で評価する。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査			
														前期		後期	
														中間	期末	中間	期末
世界史へのいざない	8																
I 序章 文明のはじまり	14																
I 第1章 ユーラシアの諸文明の特質	16																
I 第2章 ユーラシアの交流	48																
II 第3章 一体化に向かう世界	56																
II 第4章 アジアの繁栄と世界	72																
III 第5章 19世紀の世界一体化と日本	92																
IV 第6章 二つの世界大戦	146																
IV 第7章 第二次世界大戦後の世界と日本	188																
IV 第8章 現代の世界	206																

単元名と単元内容	配当 時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
世界史へのいざない	1	世界史学習の導入として、自然環境と人類の歴史に関わる課題や日本の歴史と世界の歴史のつながりに関わる主題を設定し、考察する活動を通じて、世界史学習の基本的な技能に触れ、世界史への興味・関心を高める。	○				中学校で習った地理や日本史の知識を踏まえ、世界史との円滑な接続ができるよう配慮する。
第Ⅰ部 ユーラシアの諸文明と交流 序章 文明のはじまり 第1章 ユーラシアの諸文明の特質 1 西アジア世界・イスラーム世界 2 ヨーロッパ世界 3 南アジア世界・東南アジア世界 4 東アジア世界・内陸アジア世界	10	西アジアの風土と諸民族、イラン文明の伝統、イスラームの成立と拡大などを扱い、西アジア世界・イスラーム世界の特質を把握する。 ヨーロッパの風土と諸民族、ギリシア・ローマ文明の伝統、キリスト教の成立などを扱い、ヨーロッパ世界の特質を把握する。 南アジア・東南アジアの風土と諸民族、仏教の成立、ヒンドゥー教とカースト制度、イスラームの影響などを扱い、南アジア世界・東南アジア世界の特質を把握させる。 東アジア・内陸アジアの風土と諸民族、漢字文化、儒教、中国を中心とする国際体制などを扱い、日本を含む東アジア世界の特質を把握する。	○	○	○	○	諸文明の自然環境、生活、宗教やユーラシア規模の交流圏とそれを支えたネットワークについて基本的な知識を身に付けるとともに、それらに関わるさまざまな資料を活用して適切に表現できるようにする。 状況により、特に重要な箇所をプリントでまとめて配布する。
第2章 ユーラシアの交流 1 海と陸の交流 2 モンゴル帝国と東西の交流 3 ヨーロッパ商業圏と東アジア海域の発展	10	ユーラシアの諸地域を結ぶ海と陸のネットワークの成長を把握する。 モンゴル帝国の拡大とモンゴルによるユーラシアの一体化を把握する。 ヨーロッパにおける商業圏の発展や、日本を含む東アジア海域の交流圏の成長を把握する。	○	○	○	○	状況により、特に重要な箇所をプリントでまとめて配布する。
第Ⅱ部 むすびつく世界と日本 第3章 一体化に向かう世界 1 世界の一体化の第一歩 2 ルネサンスと宗教改革 3 ヨーロッパの主権国家体制	10	大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアとの接触・交流を扱い、世界の一体化への動きを理解する。また、ヨーロッパの主権国家体制の成立について扱う。	○	○	○	○	16世紀から18世紀までの世界の諸地域間の接触と交流、及びそれに伴う変容について意欲的に追究し、また、これらを考察・比較して、その過程や結果を適切に表現できるようにする。 進捗や状況に応じてプリントにまとめて配布する。
第4章 アジアの繁栄と世界 1 アジアの繁栄 2 世界経済体制の形成	8	アジアの諸国家の政治と社会、大西洋貿易の展開を扱う。	○	○	○	○	進捗や状況に応じてプリントにまとめて配布する。
第Ⅲ部 近代のヨーロッパ・アメリカと世界の変動 第5章 19世紀の世界の一体化と日本 1 産業革命と工業化社会の成立 2 アメリカ独立戦争 3 フランス革命とナポレオン戦争 4 ウィーン体制とその崩壊 5 ヨーロッパ国民国家の発展 6 アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変動 7 東アジアの変容と日本の近代化	12	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展、拡大する貿易活動を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成を理解する。 ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中で日本の対応を扱い、19世紀の世界の一体化とその特質を理解する。	○	○	○	○	18世紀後期から19世紀までのヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成の進行を理解し、その知識を身に付けるとともに、これらを考察・比較して、その過程や結果を適切に表現できるようにする。 進捗や状況に応じてプリントにまとめて配布する。
第Ⅳ部 地球社会と日本 第6章 二つの世界大戦 1 激変する社会と帝国主義 2 第一次世界大戦とロシア革命 3 戦間期のヨーロッパとアメリカ 4 民族運動の高まり 5 第二次世界大戦	7	輸送革命、マスメディアの発達、企業や国家の巨大化、社会の大衆化と政治や文化の変容、公教育の普及と国民統合などを扱い、20世紀という時代の特徴を人類の視野から把握する。 第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解させ、平和の意義などについて考察する。	○	○	○	○	地球規模で一体化した現代世界の特質と展開過程に対する基本的知識を身に付けるとともに、それについて関心をもち、意欲的に追究し、人類の課題について考察を深めさせる。 進捗や状況に応じてプリントにまとめて配布する。
第7章 第二次世界大戦後の世界と日本 1 冷たい戦争 2 アジア・アフリカ諸国の独立と混乱 3 多極化の進展と冷戦体制の崩壊	6	第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。	○	○	○	○	進捗や状況に応じてプリントにまとめて配布する。
第8章 現代の世界 1 統合へ向かうヨーロッパ 2 旧ソ連・東ヨーロッパ諸国の動向 3 アメリカの戦争と世界同時不況 4 西アジアの混迷 5 南アジア・東南アジアの動き 6 巨大化する中国と東アジアの変動 7 ラテンアメリカ・アフリカ・オセアニアの情勢	6	1970年代以降の市場経済の世界化や地球規模での問題の出現を理解し、日本が世界の諸国、諸地域と多様性を認めあいながら共存する方向などについて考察する。	○	○	○	○	進捗や状況に応じてプリントにまとめて配布する。

評価規準： a. 関心・意欲・態度 b. 思考・判断・表現 c. 技能 d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
数学	数学Ⅱ	2	必修	4	

使用教科書		数研出版「最新 数学Ⅱ」		使用副教材	数研出版「パラレルノート数学Ⅱ」	
科目の目標		方程式や関数などを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。				
学習の到達目標		1 基礎的な知識を習得し、身に付けた技能を的確に活用する。 2 世の中で見られる事象を数学的に考察し処理する。 3 自分の考えを論理的に組み立て、わかりやすく表現する。				
学習の進め方		・ 1年次に学んだ「数学Ⅰ」や「数学A」の内容を確認しながら進める。 （説明やまとめの後に、問題を演習して考え方や解き方を身に付ける） ・ 予習は、教科書を使用し、次の授業で行う単元の、例題や練習問題に自主的に取り組んでみること。 ・ 復習は、ノートを見て授業の内容やまとめを確認し、例題や問題を解きなおすとよい。				
学習の留意点		・ 授業規律をしっかりと守り、真剣かつ積極的に授業に参加すること。 ・ 予習、復習を怠らないこと。わからないことは積極的に質問して理解しようとする姿勢で臨むこと。 ・ 課題は必ず提出すること。 ・ 自ら学ぶ意欲を持ち、努力を怠らないこと。 ・ 「軌跡と領域」の一部については講習や添削指導で扱う。 ・ 数学Ⅱと数学Bは時期を分け、集中的に実施する。 ・ 数学は習熟度別にクラスを分けて授業を行い、それぞれの進路を考慮した学習をする。				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	技能	知識・理解	
	評価の観点	数学の論理や体系に関心を持っている。 事象の問題解決に数学を活用し、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	基礎的・基本的な技能を活用しながら、論理的に考察し、表現することができる。 事象の問題解決において、思考の過程を振り返り、論理立てて考えることができる。	数量や図形など、事象を数学的に表現・処理する仕方を身に付けている。	数量や図形に関する基礎的・基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	
	比重	20%	30%	20%	30%	
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・授業中の発言、課題に対する取り組みなど、積極的に数学を学ぼうとする姿勢を評価 ○数学的な見方や考え方・各種検査・問題集の解答状況、板書ノート・提出物の内容を論理立てて考えているかを評価 ○数学的な技能・・・各種検査・問題集の解答状況から表現・処理する仕方を身に付けているかを評価 ○知識・理解・・・各種検査・問題集の解答状況から概念を理解し、知識を身に付けているかを評価 ※各種検査は定期検査や単元テスト、長期休業明け課題テスト、授業内における小テストを指している。				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期検査			
														前期		後期	
														中間	期末	中間	期末
式と証明	6																
複素数と方程式	34																
図形と方程式（式と証明）	54																
図形と方程式（円、軌跡と領域）	74																
三角関数（三角関数）	100																
三角関数（加法定理）	122																
指数関数と対数関数	134																
微分法と積分法（微分法）	164																
微分法と積分法（積分法）	186																

単元名と単元内容	配当 時間	学習内容・学習のポイント	評価規準			
			a	b	c	d
第1章 式と証明 1. 整式の乗法と因数分解 2. 二項定理 研究 $(a+b+c)^n$ の展開 3. 整式の割り算 4. 分数式の乗法・除法 5. 分数式の加法・減法 6. 恒等式 7. 等式の証明 8. 不等式の証明 9. 相加平均と相乗平均・応用演習	2 2 2 2 2 2 2 2 3	3乗に関わる展開の公式を活用し、計算することができる。 二項定理を利用し展開式の項の係数を求めることができる。 展開式の項の係数を求めることができる。 整式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。 分数式を計算することができる。 分数式の約分、加法・減法ができる。 恒等式の性質を理解している。 等式の証明をすることができる。 不等式の証明をすることができる。 相加平均と相乗平均の大小関係を証明に活用できる。	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
第2章 複素数と方程式 1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式の解法・応用演習	2 3 4 3 5	複素数に興味・関心をもち性質を使って計算することができる。 2次方程式の虚数解について考察しようとする。 種々の問題を、解と係数の関係を利用して考察できる。 剰余の定理が利用し、余りを求めることができる。 高次方程式の解を求めることができる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の平行と垂直 第2節 円、軌跡と領域 5. 円の方程式 6. 円と直線・応用問題演習 8. 不等式の表す領域 9. 連立不等式と領域・応用演習	3 3 2 3 4 4 4 4	2点間の距離、内分点、外分点を求めることができる。 座標平面上の2点間の距離、内分点、外分点を求めることができる。 与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 2直線の平行と垂直の関係を考察できる。点と直線の距離を求めることができる。 与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 円と直線の共有点の座標を求めることができる。 座標平面上の点の集合として図示することができる。 座標平面上の点の集合として図示することができる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
第4章 三角関数 第1節 三角関数 1. 一般角 2. 弧度法 3. 三角関数 4. 三角関数の性質 5. 三角関数のグラフ 6. 三角関数を含む方程式、不等式 第2節 加法定理 7. 加法定理 8. 加法定理の応用 9. 三角関数の合成・応用問題演習	1 1 4 3 4 3 3 2 3	一般角を動径とともに考察することができる。 弧度法の換算、扇形の弧の長さや面積を求めることができる。 三角比の定義を、三角関数の定義に一般化することができる。 単位円を利用して、三角関数の性質を調べ活用しようとする。 三角関数のグラフを考えることができる。 さまざまな三角関数のグラフを書くことができる。 加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 加法定理から2倍角の公式を導こうとする。 三角関数の合成に興味をもち、公式を理解している。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
第5章 指数関数と対数関数 1. 指数法則 2. 指数関数とそのグラフ 応用問題演習 3. 対数 4. 対数の性質 5. 対数関数とそのグラフ 6. 常用対数 応用問題演習	3 3 3 1 2 3 2 3	指数法則を用いて計算することができる。 指数関数のグラフの概形を書くことができる。 $\log_a M$ が $M=a^p$ を満たす指数 p を表していることを理解している。 対数の性質を使って計算することができる。 対数関数のグラフの概形を、点をプロットして書くことができる。 正の数 $a \times 10^n$ の形に表現して、対数の値を求めることができる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
第6章 微分法と積分法 第1節 微分法 1. 平均変化率と微分法 2. 導関数 3. 微分法の公式 4. 接線 5. 関数の増減 6. 関数の極大・極小 7. 関数の最大・最小 8. 方程式・不等式への応用 応用問題演習 第2節 積分法 9. 不定積分 10. 不定積分の計算 11. 定積分 12. 定積分の性質 13. 面積 応用問題演習	1 1 2 2 2 2 3 3 2 2 2 2 4 3	平均変化率の定義を理解し、それらを求めることができる。 導関数の記号を理解して、それらを適切に使うことができる。 導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。 微分係数と直線の方程式の公式から、接線を求めることができる。 関数の増減が調べられることを理解している。 関数の極値を調べるのに、増減表を作成して考察している。 最大値・最小値と極大値・極小値との違いを、意識して考察できる。 方程式や不等式、式の証明を微分法から求めることができる。 不定積分を求めることができる。 不定積分の性質を理解し、計算することができる。 定積分の定義を理解し計算することができる。 定積分の公式や性質を理解している。 面積を定積分で表し、計算することができる。さまざまな関数で囲まれた面積を求めることができる。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

評価規準：a 関心・意欲・態度 b 数学的な見方や考え方 c 数学的な技能 d 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
数学	数学B	2	必修	2	

使用教科書		数研出版「最新 数学B」		使用副教材	数研出版「パラレルノート数学B」
科目の目標		数列やベクトルについて理解し、数学的な考え方を身に付けることができる。			
学習の到達目標		1 基礎的な知識を習得し、身に付けた技能を的確に活用できる。 2 世の中で見られる事象を数学的に考察し処理することができる。 3 論理的に考え、物事を正確に判断する力を身に付ける。			
学習の進め方		・1年次に学んだ「数学I」や「数学A」の内容を確認しながら進める。 （説明やまとめの後に、問題を演習して考え方や解き方を身に付ける） ・予習は、教科書を使用し、次回の授業で行う単元の例題や練習問題に自主的に取り組んでみること。 ・復習は、ノートを見て授業の内容やまとめを確認し、例題や問題を解きなおすとよい。			
学習の留意点		・授業規律をしっかりと守り、真剣かつ積極的に授業に参加すること。 ・予習、復習を怠らないこと。わからないことは積極的に質問して理解しようとする姿勢で臨むこと。 ・課題は必ず提出すること。 ・自ら学ぶ意欲を持ち、努力を怠らないこと。 ・「空間のベクトル」および「数学的帰納法」の単元については講習や添削指導で扱う。 ・数学Ⅱと数学Bは時期を分け、集中的に実施する。 ・数学は習熟度別にクラスを分けて授業を行い、それぞれの進路を考慮した学習をする。			
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	技能	知識・理解
	評価の観点	数学の論理や体系に関心を持っている。 事象の問題解決に数学を活用し、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	基礎的・基本的な技能を活用しながら、論理的に考察し、表現することができる。 事象の問題解決において、思考の過程を振り返り、論理立てて考えることができる。	数量や図形など、事象を数学的に表現・処理する仕方を身に付けている。	数量や図形に関する基礎的・基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
	比重	20%	30%	20%	30%
	評価方法	○関心・意欲・態度…授業中の発言、課題に対する取り組みなど、積極的に数学を学ぼうとする姿勢を評価 ○数学的な見方や考え方…各種考査・問題集の解答状況、板書ノート・提出物の内容を論理立てて考えているかを評価 ○数学的な技能…各種考査・問題集の解答状況から表現・処理する仕方を身に付けているかを評価 ○知識・理解…各種考査・問題集の解答状況から概念を理解し、知識を身に付けているかを評価 ※各種考査は定期考査や単元テスト、長期休業明け課題テスト、授業内における小テストを指している。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査			
														前期		後期	
														中間	期末	中間	期末
ベクトル（平面上のベクトル）	6																
ベクトル（空間のベクトル）	46																
数列（数列とその和）	66																
数列（漸化式と数学的帰納法）	88																

単元名と単元内容	配当 時間	学習内容・学習のポイント	評価規準			
			a	b	c	d
第1章 平面ベクトル						
第1節 ベクトルとその演算						
1. ベクトル	2	ベクトルの向き、相等について理解している。			○	○
2. ベクトルの和	2	和や差における逆ベクトル、零ベクトルを理解している。		○		
3. ベクトルの差	2	ベクトルの加法、減法、実数倍の計算を理解している。			○	○
4. ベクトルの実数倍	2	和、差、実数倍について考察できる。				○
5. ベクトルの成分	2	ベクトルが座標平面で表現できることに興味・関心をもつ。	○			
6. ベクトルの成分と演算	4	成分表示されたベクトルの和、差、実数倍の計算ができる。			○	○
7. ベクトルの内積	4	内積のもつ図形的な意味を探ろうとする。	○			
8. ベクトルの平行・垂直	3	1つのベクトルと同じ向きの単位ベクトルを式で表現できる。			○	
9. 内積の性質	3	内積の性質（計算法則）を理解し、計算に利用できる。				○
第2節 ベクトルと平面図形						
10. 位置ベクトル	3	位置ベクトルの概念について理解している。		○		○
11. ベクトルと図形	3	点Pが直線AB上にあることをベクトルで表現できる。		○		
12. ベクトル方程式	3	直線のベクトル方程式を理解している。			○	
練習問題、円のベクトル方程式	4	ベクトルを利用して円の性質を考察しようとしている。	○	○		
応用問題演習	6	点の存在範囲を求めたり、線分の交点の位置ベクトルを求めたりすることができる。		○	○	
第3章 数列						
第1節 数列とその和						
1. 数列	1	数列の定義、表記について理解している。	○			○
2. 等差数列	1	等差数列の項を求めることができる。		○		○
3. 等差数列の和	2	等差数列の和の公式を利用して数列の和が求められる。			○	○
4. 等比数列	1	等比数列の項を求めることができる。		○		
5. 等比数列の和	1	等比数列の和の公式を利用して数列の和が求められる。			○	○
6. 和の記号 Σ	1	Σ の式を和の形で表すことができる。	○			○
7. 自然数の2乗の和	2	自然数の2乗の和を計算することができる。			○	○
8. いろいろな数列の和	2	第k項をkの式で表して、 Σ の式を利用し、和が求められる。		○	○	
9. 階差数列	2	数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。		○		○
練習問題、和の求め方の工夫	2	和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。	○	○		
第2節 漸化式と数学的帰納法						
10. 漸化式と一般項	3	初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。		○		○
11. 数学的帰納法	3	数学的帰納法で証明しようとする。		○	○	
応用問題演習	6			○	○	

評価規準：a 関心・意欲・態度 b 数学的な見方や考え方 c 数学的な技能 d 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
理科	物理基礎	2	必修	2	

使用教科書		東京書籍「物理基礎」		使用副教材	東京書籍「ニューアチーブ物理基礎」	
科目の目標		自然現象の法則性を理解するとともに、さまざまな「エネルギー」について理解を深め、自分たちの将来のエネルギー問題について考える基本的な知識を身に付ける。				
学習の到達目標		1 物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを学び、様々なエネルギーへの関心を高める。 2 調べ学習や観察・実験を通して、物理的に探究する能力と態度を身に付ける。 3 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 4 科学技術の在り方やエネルギー問題について、市民が意思決定するために必要な科学的な知識・能力・態度を身に付ける。				
学習の進め方		・自然界には理論に基づいた法則性があり、それを数式によって表すことができるので、数学の知識と処理方法を身に付けながら、実験等を通して数的処理を学ぶ。 ・毎時、学習内容に関する問題演習を行い、公式の定着と物理学の問題の解き方を身に付ける。 ・実験を通して実験器具の操作を学びながら、自ら問題を発見する力を身に付ける。				
学習の留意点		・少なくとも、四則計算（足し算、引き算、掛け算、割り算）と分数計算が滞りなくできるように、配布する計算演習を何度も行う。 ・自然現象を説明するために、「公式」を用いて計算することになるので、授業で提示した「公式」はその週のうちに覚えること。 ・教科書を繰り返し読んで、授業に臨むこと。また、宿題など復習の時間は、必ず確保すること。				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	評価の観点	・学習活動（質疑応答、討論、演習、実験・観察など）に積極的に参加しようとしている。 ・提出物の作成（レポートや授業ノートなど）に意欲的に取組もうとしている。 ・科学技術の在り方やエネルギー問題について関心をもち、話し合いや探究活動に意欲的に参加しようとしている。	・計算ミスなどがあって正しい結論に至らなかったとしても、その思考過程が物理的に正しく、しっかり判断もできている。 ・討論、レポート作成、論述問題などで、科学的な根拠に基づいて述べることでできている。 ・観察・実験から得られた事実、文献・Web などから得た情報、自分の考えのそれぞれをはっきり区別して表現できている。	・観察・実験を安全に遂行できる。 ・それぞれの実験操作の意味を理解して、正確に遂行できる。 ・データの取り方が適切である（とりこぼし、計測ミスなどがない）。 ・データの処理が適切である（有効桁数などが適切である）。 ・グラフを有効に活用できている（目盛の設定、見やすさの工夫）。	・物理的な知識の活用力・応用力が身に付く。 ・物理的な現象を論述できる。 ・実験レポート等で、授業で学習した内容を正しく理解し知識となってきたちゃんとレポートに反映されている。	
	比重	15%	40%	10%	35%	
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・行動観察や提出物、及び定期考査の選択問題などを手がかりに評価する ○思考・判断・表現・・・行動観察や提出物、定期考査の論述問題などで評価する ○技能・・・・・・・・・・実験レポートや定期考査のグラフ問題などで評価する ○知識・理解・・・・・・・・行動観察や提出物、及び定期考査の論述問題などを手がかりに評価する				

単元		頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査			
															前期		後期	
															中間	期末	中間	期末
2編	4章 エネルギーとその利用	196																
1編	1章 物理量の測定と扱い方	2																
	2章 速度・加速度	14																
	3章 さまざまな力とそのはたらき	32																
	4章 力学的エネルギー	76																
2編	1章 熱	118																
	2章 波	134																
	3章 電気と磁気	164																
	終章 物理学が拓く世界	215																

単元名と単元内容	配当 時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
2 編 さまざまな物理現象とエネルギー 4 章 エネルギーとその利用	4	- 身の回りのエネルギーについて学び、力学・熱・電気分野で扱うエネルギーについての基礎的な知識を習得する。 - エネルギー問題について関心を持ち、その解決のために必要とされる基本的な科学知識や態度を、討論や探究活動などを通して身に付ける。 - 原子力発電や医療などにおける放射線及び原子力の利用とそれに伴うリスクについて、具体的な事例に触れながら理解を深める。	○	○	○		
1 編 物体の運動とエネルギー 1 章 速度・加速度	10	- 物体の運動を測定し、その運動を変位－時間のグラフや速度－時間のグラフで表すことなどを通して、変位や速度などの物体の運動の基本的な表し方について理解する。 - 同一直線上を等速直線運動している物体の合成速度や相対速度について理解する。 - 物体が直線上を運動する場合の加速度について理解し、グラフや式を使って物体の運動を分析できるようになる。		○	○	○	実験 1 等速直線運動
2 章 さまざまな力とそのはたらき	14	- 物体にはたらく様々な力を見抜いてベクトルで表す方法を身に付けるとともに、それらの力がつり合う条件を見出せるようになる。 - 直線運動を中心に慣性の法則、運動の第二法則、作用反作用の法則について理解する。さらに、これらの法則を用いて物体にはたらく力と運動との関係を分析できるようになる。 - 摩擦力、及び液体や気体から受ける力（圧力、浮力、抵抗力）について理解し、それらがはたらくときの物体の運動を分析できるようになる。	○	○	○	○	実験 2 等加速度直線運動
3 章 力学的エネルギー	10	- エネルギーを測るものさしとしての仕事の定義、及び仕事の原理と仕事率について理解する。 - 仕事をする能力としての位置エネルギーと運動エネルギーの表し方について理解する。 - 力学的エネルギー保存の法則とその適用条件について仕事と関連付けて理解を深め、この法則を用いていろいろな運動を分析できるようになる。	○	○	○	○	実験 3 ばね付き台車の衝突実験
2 編 さまざまな物理現象とエネルギー 1 章 熱	8	- ブラウン運動などの観察を通して、原子や分子の熱運動と温度との関係を定性的に理解する。 - 原子や分子の熱運動というミクロな立場から、物質の三態変化、絶対温度、及び潜熱（融解熱、蒸発熱）について理解する。 - 熱量、熱容量、比熱、及び熱量の保存について理解し、熱を定量的に扱えるようになる。 - 仕事と熱の変換、内部エネルギー、及び熱力学第一法則について学び、熱現象とエネルギーの関係について理解する。 - 熱機関とその熱効率、及び熱現象の不可逆性について学び、エネルギーの有効利用についての理解を深める。	○	○	○	○	実験 4 最大摩擦力の測定
2 章 波	10	- 波の性質を理解し、波の波長、振動数、波の伝わる速さなどを量的に扱えるようになる。 - 横波と縦波の違いを理解する。また、波の伝わり方について、波の速さ、波長、周期や振動数の量的関係を扱えるようになる。 - 波の独立性、重ね合わせの原理、反射について観察や作図を通して学び、定常波ができるしくみについて理解する。 - 音波の性質として、うなり、固有振動、共振、共鳴などを学び、身近な楽器の原理について理解する。	○	○	○	○	実験 5 運動エネルギーを比べる 実験 6 振り子の運動を調べる
3 章 電気と磁気	10	材質、長さ、断面積の異なる金属線の抵抗を調べる実験を通して、物質の種類による抵抗の違いを抵抗率で表せることを理解する。さらに、複数の抵抗をつないだときの合成抵抗を求めることができるようになる。			○	○	実験 7 ブラウン運動の観察
終章 物理学が拓く世界	4	「物理基礎」で学んだ事柄と日常生活やそれを支えている科学技術との結び付きについて理解し、身に付けた知識を用い意欲的に探究することができる。	○	○		○	実験 8 金属の比熱の測定

評価規準： a. 関心・意欲・態度 b. 思考・判断・表現 c. 技能 d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
理科	生物基礎	2	必修	2	

使用教科書		数研出版「改訂版 生物基礎」		使用副教材	数研出版「スタディアップノート生物基礎」	
科目の目標		生物の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
学習の到達目標		1 日常生活や社会との関連を図りながら生物学や生物現象への関心を高める。 2 目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。 3 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
学習の進め方		ミクロからマクロまで、内容が多岐にわたるので、それぞれの内容の関連性にも注意する。また身の回りの事象や社会で注目されている話題とのつながりも考えながら学習を進めると理解しやすい。適宜練習問題や小テストを行うので、その日に学んだことはその日のうちに復習しておくが良い。				
学習の留意点		・用語や図を多数扱うので、しっかりノートをとること。 ・教科書の図などを利用することがあるので、忘れ物をしないようにすること。 ・課題が出された場合は、期日までに必ず提出すること。				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	評価の観点	・学習活動（質疑応答、討論、演習、実験・観察など）に積極的に参加し、自分の考えを深めようとしている。 ・提出物の作成（レポートや授業ノートなど）に意欲的に取り組み、自分の考えを表現しようとしている。 ・科学技術の在り方や社会との関係に関心を持ち、話し合いや探究活動に意欲的に参加しようとしている。	・実験結果や既知の知識から論理的な思考をし、考察することができている。 ・討論、レポート作成、論述問題などで、科学的な根拠に基づいて述べる事ができている。 ・観察・実験から得られた事実、文献や Web などから得た情報、自分の考えのそれぞれをはっきり区別して表現できている。	・観察・実験を安全に遂行できる。 ・それぞれの実験操作の意味を理解して、正確に遂行できる。 ・データの取り方が適切である（とりこぼし、計測ミスなどがない）。 ・観察の仕方やレポートの書き方が適切である。	・生物学的な知識の活用能力・応用力が身に付いている。 ・生物学的な現象を論述できる。 ・実験レポート等で、授業で学習した内容を正しく理解し知識となっており、きちんと反映されている。	
	比重	25%	35%	20%	20%	
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・行動観察や提出物、及び定期考査の選択問題などを手がかりに評価する ○思考・判断・表現・・・行動観察や提出物、及びプレゼンテーション、定期考査の論述問題などで評価する ○技能・・・実験レポートや定期考査のグラフ問題などで評価する ○知識・理解・・・行動観察や提出物、及び定期考査の論述問題などを手がかりに評価する				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査			
														前期		後期	
														中間	期末	中間	期末
生物基礎を学ぶにあたって	6																
生物の多様性と共通性	22																
エネルギーと代謝	36																
光合成と呼吸	42																
遺伝情報と DNA	58																
遺伝情報の発現	66																
遺伝情報の分配	78																
体内環境としての体液	96																
腎臓と肝臓による調節	104																
神経とホルモンによる調節	114																
免疫	126																
植生とその成り立ち	148																
植生の遷移	153																
気候とバイオーム	162																
生態系とその成り立ち	182																
物質循環とエネルギーの流れ	188																
生態系のバランスと保全	194																

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
生物基礎を学ぶにあたって	3	顕微鏡の使い方をしっかり習得させるなど、生物基礎を学ぶ上で必要最低限の技能を身に付ける。	○			○	実験 1 顕微鏡観察の基本操作
1 章 生物の特徴							
1 生物の多様性と共通性	5	生物は多様であること、しかし共通性があること、共通性は起源を同じくすることに由来することを学習する。	○			○	実験 2 カタラーゼの反応
2 エネルギーと代謝	3	生物の代謝には酵素が重要であること、代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。	○	○		○	
3 光合成と呼吸	4	光合成と呼吸の学習を通して、具体的な代謝について学習する。	○		○	○	
2 章 遺伝子とそのはたらき							
1 遺伝情報と DNA	4	遺伝情報を担う物質である DNA について、構造などの基本事項を学習する。	○			○	実験 3 タマネギの DNA の抽出
2 遺伝情報の発現	5	転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について学習する。	○	○	○	○	
3 遺伝情報の分配	5	遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて学習する。	○				
3 章 生物の体内環境							
1 体内環境としての体液	4	体内環境がいかにしてほぼ一定に保たれているのかについて基本事項を学ぶ。また体液の種類や循環系の特徴についても理解する。	○	○			実験 4 ブタの腎臓の観察 実験 5 ブタの眼球の解剖
2 腎臓と肝臓による調節	4	腎臓と肝臓を例に内部環境を一定に保つ仕組みを学習する。	○	○	○	○	
3 神経とホルモンによる調節	5	自律神経系と内分泌系について学習する。	○	○			
4 免疫	6	抗原から自身を守る機構や近年の医療技術について学ぶ。	○	○		○	
4 章 植生の多様性と分布							
1 植生とその成り立ち	4	植生の構造や特徴的な植物について学ぶ。		○		○	
2 植生の遷移	4	遷移とその仕組みについて学習する。		○	○	○	
3 気候とバイオーム	4	地球上には様々なバイオームが見られることを世界と日本のバイオームを取り上げて学習する。	○			○	
5 章 生態系とその保全							
1 生態系とその成り立ち	3	生態系を構成している環境や生物の関係について学ぶ。	○	○		○	
2 物質循環とエネルギーの流れ	3	生態系における物質循環とエネルギーの流れについて炭素と窒素を例に学習する。	○	○		○	
3 生態系のバランスと保全	4	様々な環境や生物が複雑に関係し合っている生態系のバランスが保たれていることを学ぶ。	○	○	○	○	

評価規準： a. 関心・意欲・態度 b. 思考・判断・表現 c. 技能 d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
保健体育	体育	2	必修	3	

使用教科書		大修館書店「現代高等保健体育」		使用副教材	
科目の目標		運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。 公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。			
学習の到達目標		現在及び将来の自己の状況に応じて体力の向上及び健康の保持増進を図るとともに、卒業後に少なくとも一つの運動が継続できるようにし、生涯にわたって豊かなスポーツライフの実現を図る。			
学習の進め方		1 実技は校内の施設・用具を利用し授業を実施する。また、体育理論は集中実施方式をとる。 2 授業形態は、学年を基本とし、領域・種目ごとに男女別の授業展開や種目選択（男女共習）などがある。 3 種目ごとにスキルテストを実施する。（体づくり運動、体育理論を除く）			
学習の留意点		1 実技が中心の科目のため、原則見学は認められない。 2 指定ジャージ・指定靴の着用ほか、運動に適した服装を心がけること。 3 初めて実施する種目や強度の高い運動については、健康・安全面に配慮し、取組むこと。			
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現や自己実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
	比重	20%	20%	40%	20%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・授業に取り組む意欲や姿勢などを観察・学習ノート等で評価する。 ○思考・判断・表現・・・課題への取組や工夫、周囲との協力など、観察・学習ノート等で評価する。 ○技能・・・・・・・・・・授業への取組やスキルテストで評価する。 ○知識・理解・・・・・・・・学習した内容について、言ったり、書き出したりしているなど、観察・学習ノート等で評価する。			

単元(種目・領域)	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査			
														前期		後期	
														中間	期末	中間	期末
体づくり運動																	
卓球・バドミントン選択																	
陸上競技																	
ソフトボール																	
サッカー																	
柔道・ダンス選択																	
バスケットボール（男子）																	
バスケットボール（女子）																	
バレーボール（男子）																	
バレーボール（女子）																	
スキー																	
体育理論																	

単元名と単元内容	配当 時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
体づくり運動	7	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	○	○		○	新体力テストの実施
卓球・バドミントン選択	12	・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携（ダブルス）、試合 ・安全面への留意	○	○	○	○	
陸上競技	14	・短距離走 ・走り高跳び、走り幅跳び、砲丸投げ、中長距離走（1500m、800m）から選択	○	○	○	○	雨天時は室内競技を実施する
球技（ベースボール型） ソフトボール（男子）	14	・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意	○	○	○	○	雨天時は室内競技を実施する
球技（ゴール型） サッカー（女子）		・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意	○	○	○	○	雨天時は室内競技を実施する
柔道・ダンス選択	12	<柔道> ・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・試合 ・安全面への留意 <ダンス> ・練習方法の確認（表現テスト） ・現代的なリズムのダンス ・創作ダンス	○	○	○	○	
球技（ゴール型） バスケットボール	14	・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意	○	○	○	○	
球技（ネット型） バレーボール	14	・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意	○	○	○	○	
スキー	12	・パラレルターンへの移行 ・前傾姿勢、重心を意識した滑り ・健康・安全にスキーに親しむために ・スキルテスト	○	○	○	○	三笠山スキー場にて実施
体育理論	6	・スポーツの技術と戦術 ・技能の上達過程と練習 ・効果的な動きのメカニズム ・技能と体力 ・体カトレーニング ・運動やスポーツでの安全確保	○	○		○	講義形式（パワーポイント）で実施。

評価規準： a. 関心・意欲・態度 b. 思考・判断・表現 c. 技能 d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
保健体育	保健	2	必修	1	入学年次より、2ヶ年にわたり履修

使用教科書		大修館書店「現代高等保健体育」		使用副教材	大修館書店「現代高等 保健体育ノート」	
科目の目標		個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身に付ける。				
学習の到達目標		個人生活や社会生活における健康・安全の問題を認識するとともに、課題に直面した場合に、的確な思考・判断に基づき、自らの意志や行動の選択などが実践できるようになるための基礎を身に付ける。また、健康に関する興味・関心を広く持てる。				
学習の進め方		講義形式、ワークシート、グループディスカッション、ロールプレイング。				
学習の留意点		1 科目「体育」との関連が深いため、つながりを意識ながら学習に臨むこと。 2 知識を習得し、理解するだけでなく、意見交流などを通じ、自らの考えを深めること。 3 考えたことを基に書く、話し合う、発表するなど、主体的に学習に取り組むこと。				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能		知識・理解
	評価の観点	生涯を通じる健康・社会生活と健康について、生涯の各段階における健康課題や、社会生活における健康の保持増進に関する事項等に関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	生涯を通じる健康・社会生活と健康について、生涯の各段階における健康課題の解決や社会生活における健康の保持増進に関わる課題の解決を目指し、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。			生涯を通じる健康・社会生活と健康について、生涯の各段階の健康課題や社会生活における健康の保持増進に関する課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
	比重	25%	25%	—		50%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 例) 資料を探す・見る・読む、話し合い・意見交換、ワークシート等の提出物など。 ○思考・判断・・・学習した内容を基に課題を見付けたり、整理したりするなどして、それらを説明している。 例) 比較・分析・評価などを行い、筋道を立てて説明している。 ○知識・理解・・・学習した内容について、理解したことを発言したり、記述したりしている。 例) 授業の中における発表や発言、定期考査など。				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査				
														前期		後期		
														中間	期末	中間	期末	
2 単元 生涯を通じる健康																		
1 思春期と健康	64																	
2 性意識と性行動の選択	66																	
3 結婚生活と健康	68																	
4 妊娠・出産と健康	70																	
5 家族計画と人工妊娠中絶	72																	
6 加齢と健康	74																	
7 高齢者のための社会的取り組み	76																	
8 保険制度とその活動	80																	
9 医療制度とその活用	82																	
10 医薬品と健康	84																	
11 さまざまな保健活動や対策	86																	
3 単元 社会生活と健康																		
1 大気汚染と健康	90																	
2 水質汚濁・土壌汚染と健康	92																	
3 健康被害の防止と環境対策	94																	
4 環境衛生活動のしくみと働き	98																	
5 食品衛生活動のしくみと働き	100																	
6 食品と環境の保健と私たち	102																	
7 働くことと健康	104																	
8 労働災害と健康	106																	
9 健康的な職業生活	108																	

	単元名と単元内容	配当 時間	学習内容・学習のポイント	評価規準			備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
				a	b	c	
生涯を通じる健康	1 思春期と健康	2	・思春期の体と健康 ・思春期の心と健康	○	○	○	グループワーク
	2 性意識と性行動の選択	1	・性意識の変化と異性の尊重 ・性に関する情報と性行動		○	○	
	3 結婚生活と健康	1	・心身の発達と結婚生活 ・結婚生活と家族の健康	○		○	
	4 妊娠・出産と健康	2	・受精・妊娠・出産 ・妊娠・出産期の健康のために	○	○	○	グループワーク
	5 家族計画と人工妊娠中絶	2	・家族計画の意義と避妊法 ・人工妊娠中絶	○		○	グループワーク
	6 加齢と健康	1	・加齢にともなう心身の変化 ・中高年期を健やかに過ごすために			○	
	7 高齢者のための社会的取り組み	2	・高齢者の健康課題とその支援 ・すべての人が健康で安全に暮らすための取り組み	○	○	○	ペアワーク
	8 保険制度とその活動	2	・保健行政の役割と健康づくり ・保健サービスの活用	○	○	○	
	9 医療制度とその活用	1	・医療制度と医療保険のしくみ ・医療機関と医療サービスの活用			○	
	10 医薬品と健康	2	・医薬品の種類と使い方 ・医薬品の安全性のための対策	○	○	○	グループワーク
	11 さまざまな保健活動や対策	2	・健康づくりのための活動 ・民間機関の保健活動 ・国際機関の保健活動	○	○	○	
前期期末考査		1	・知識の確認等		○	○	ノート提出
社会生活と健康	1 大気汚染と健康	2	・大気汚染の原因と健康影響 ・大気にかかわる地球規模の問題	○	○	○	調べ学習・発表
	2 水質汚濁・土壌汚染と健康	2	・水質汚濁、土壌汚染とその健康影響 ・大気汚染、水質汚濁、土壌汚染の関わり	○	○	○	
	3 健康被害の防止と環境対策	1	・環境汚染の防止とその対策 ・産業廃棄物の処理と健康			○	
	4 環境衛生活動のしくみと働き	1	・ごみの処理 ・上下水道の整備とし尿の処理	○		○	
	5 食品衛生活動のしくみと働き	1	・食品の安全性 ・行政や製造・加工者による衛生管理	○			グループワーク
	6 食品と環境の保健と私たち	2	・食品の安全と私たちの役割 ・環境の保健と私たちの役割	○	○	○	
	7 働くことと健康	2	・働くことと健康の関わり ・働き方と健康問題の変化	○	○	○	
	8 労働災害と健康	2	・労働災害とその防止 ・安全管理と健康管理のしくみ	○	○	○	
	9 健康的な職業生活	2	・職場における取り組み ・日常生活における取り組み		○	○	
	学年末考査	1	・知識の確認等		○	○	ノート提出

評価規準： a. 関心・意欲・態度 b. 思考・判断・表現 c. 技能 d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	2	必修	4	

使用教科書	教育出版「New ONE WORLD Communication II」		使用副教材	教育出版「New ONE WORLD Communication II Workbook」 桐原書店「データベース 3000 4th Edition」	
科目の目標	・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。 ・英語で書かれたり話されたりした情報を適切に理解できる。 ・理解した情報を元に、自身の考えを書く、話す形で発表することができる。				
学習の到達目標	1 英語の幅広い話題（言語や文化など）について、聞いたことや読んだことを理解できる。 2 英語を使って、広い視野に立って情報を発信できる。 3 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。				
学習の進め方	・授業中は音読やコミュニケーション活動に積極的に参加し、英語を使う機会を増やすこと。 ・復習では、本文を音読するとともに、新出単語を書けるように何度も学習すること。 ・文法事項については、家庭学習課題等で確認するので、確実に取り組むこと。				
学習の留意点	・習熟度に応じた3展開のクラス編成で授業を実施します。考查ごとにクラスを移動する場合があります。 ・授業規律を守り、グループワーク等の表現活動に積極的に取り組むこと。 ・復習を怠らないこと。わからないことは質問し、必ず理解するまで諦めないこと。 ・英語は言語であり、コミュニケーションを図る手段であるため、その前提となる「聞くこと」「話すこと」について、疎かにせず繰り返し学習すること。				
評価 規 準	観点別	関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の技能	言語や文化の知識・理解
	評価の観点	コミュニケーション活動へ関心・積極性・主体性を持って参加しようとしている。	話す・書くを通じて情報や考えを伝えることができる。	聞く・読むを通じて情報や考えを理解できる。	英語学習を通じて言語や文化的背景の知識を理解できる。
	比重	25%	30%	25%	20%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・コミュニケーション活動への参加態度、発表の内容、提出物の提出頻度と内容 ○外国語表現の能力・・・定期考查の成績、コミュニケーション活動の内容、発表の内容、提出物の提出頻度と内容 ○外国語理解の技能・・・定期考查の成績、提出物の提出頻度と内容 ○言語や文化の知識・理解・・・定期考查の成績、発表の内容、提出物の提出頻度と内容			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考查			
														前期		後期	
														中間	期末	中間	期末
Lesson 1 Ambassador of World Peace 現在完了形、関係副詞、It seems that ~	5																
Lesson 2 Dogs as Human Companions 形式主語 it(that 節や to 不定詞)、過去完了形、分詞構文(現在分詞)	15																
Lesson 3 The Culture of Bowing SVC(=現在分詞)、the 比較級、the 比較級、仮定法過去	27																
Lesson 4 The Floating Islands of Lake Titicaca 形式目的語 it(to 不定詞)、過去完了進行形、関係代名詞非制限用法、前置詞+関係代名詞	37																
Reading 1 True Love	51																
Lesson 5 Optical Illusion 同格 (that)、関係詞の非制限用法、S+V+C(過去分詞)	59																
Lesson 6 English Textbooks from Around the World 倒置構文、強調構文、SVOC(=過去分詞)、SVC(=疑問詞)の用法	71																
Lesson 7 The Hayabusa Project 分詞構文(過去分詞)、否定を表す形容詞・副詞、助動詞+完了形、未来進行形	85																
Lesson 8 The Origin of Santa Claus wish+仮定法過去、分詞構文(完了形)、間接疑問文、形式目的語 it(=that)	99																
Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic 付帯状況、完了不定詞、譲歩、仮定法過去完了	113																
Lesson 10 Agroforestry 未来完了形、if を使用しない仮定法、as if+仮定法、which の非制限用法	125																
Reading 2 The Doughnuts	139																

単元名と単元内容	配当 時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
Lesson 1 Ambassador of World Peace 現在完了形、関係副詞、It seems that ～	11	- 日本人にとってサクラはどのような意味を持つのか、理解する。 - 主に1年次に学習した文法事項について確認し、復習する。 - サクラを通して、日本の文化や風習を確認し、概要や要点をとらえる。		○	○	○	日本人にとってのサクラの存在意義について自分なりにまとめ、英語で発表する。
Lesson 2 Dogs as Human Companions 形式主語 it(that 節や to 不定詞)、過去完了形、分詞構文(現在分詞)	11	- 古代から続くイヌと人間との関係について学び、理解する。 - 本単元で扱う文法事項について理解し、それを用いた文の特徴を意識しながら読むことができるようにする。	○			○	単元で学習した文法事項を用いた文を滑らかに音読できるようにする。
Lesson 3 The Culture of Bowing SVC(=現在分詞)、 the 比較級、the 比較級、 仮定法過去	11	- 日本人にとってのおじぎの意味に気づくとともに、外国の習慣との違いを理解する。 - 本単元で扱う文法事項について理解し、それを意識しながら読むことができる。 - さまざまな事実や意見を理解したり、区別したりしながら、聞いたり話したりする。	○		○	○	「おじぎ」や世界の挨拶の方法について自分なりに調べ、グループワークを通じて意見や情報を交換する。
Lesson 4 The Floating Islands of Lake Titicaca 形式目的語 it(to 不定詞)、過去完了進行形、 関係代名詞非制限用法、 前置詞＋関係代名詞	13	- チチカカ湖で暮らす人々の生活を知るとともに、今、湖の周辺で起こっている環境問題についても理解する。 - 関係代名詞の応用的な用法を理解する。 - 情報や考えなどを理解しながら、話し合った内容をまとめたりする。	○	○	○		グループで文化や環境の保全に関わる問題について話し合う。
Reading 1 True Love	8	- 物語を読んで、内容を理解するとともに、登場人物たちの心の動きを理解する。 - 物語を音声的な特徴やスピード、声の大きさなどに注意しながら音読したり、概要や要点などを簡潔に書いたりする。	○	○			登場人物の気持ちなどが伝わるように物語を音読する。
Lesson 5 Optical Illusion 同格 (that)、関係詞の非制限用法、 S+V+C(過去分詞)	13	- 目の錯覚で起こる現象や事柄を知り、それが世の中では、どのように応用されているか理解する。 - 関係詞の非制限用法について、制限用法との違いを理解し、意識する。 - 説明を読んで、情報を理解するとともに、積極的に知り得た情報を友だちと話し合う。			○	○	学習した文法事項を用いた文章について、同格関係や強調箇所を明確にした音読ができるようにする。
Lesson 6 English Textbooks from Around the World 倒置構文、強調構文、SVOC(=過去分詞)、 SVC(=疑問詞)の用法	13	- 世界のさまざまな国や地域の英語の教科書を読み、日本のものとの違いを理解する。 - 本単元で扱われている文法事項について、その用法を理解する。 - 異文化を踏まえて、読んだ内容について理解し、概要や要点をまとまりのある文章として書く。	○	○		○	国や地域による身近な文化の違いについてまとめ、異文化について紹介する文を書く。
Lesson 7 The Hayabusa Project 分詞構文(過去分詞)、 否定を表す形容詞・副詞、助動詞＋完了形、 未来進行形	13	「はやぶさ」プロジェクトについて知り、成功するまでのさまざまな問題点や、その成果が意味するものを理解する。 - 本単元で扱う文法事項について、その用法を理解し、書き手の意図を意識しながら読むことができる。 - 読んで得た情報や考えなどについて、聞き手に適切に伝わるように話す。	○	○	○		「はやぶさ」プロジェクトの意義や経緯についてまとめ、発表する。
Lesson 8 The Origin of Santa Claus wish+仮定法過去、分詞構文(完了形)、 間接疑問文、形式目的語 it(=that)	13	- サンタクロースに関する起源やさまざまな出来事を知り、サンタクロースが意味するものを理解する。 - 本単元で扱う文法事項について、その用法を理解し、書き手の意図を意識しながら読むことができる。 - 読んだ内容を相手に効果的に伝わるように適切に話したり書いたりする。		○	○	○	歴史的起源などをふまえて、サンタクロースの文化的な意味について自分の意見をまとめ、発表する。
Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic 付帯状況、完了不定詞、譲歩、 仮定法過去完了	13	- タイタニック号の悲劇を知り、乗船していた日本人への評価とその人の生き方を理解する。 - 本単元で扱われる文法事項について、その用法を理解し、書き手の意図を意識しながら読むことができる。 - あるテーマについてグループで積極的に討論し、結論をまとめて発表する。	○	○		○	報道被害について自分なりに調べ、考えた内容をクラスで共有する。
Lesson 10 Agroforestry 未来完了形、if を使用しない仮定法、 as if+仮定法、which の非制限用法	13	- 従来のプランテーションによる農法の問題点を知り、アグロフォレストリーの良い点と課題について理解する。 - 仮定法の応用的な用法について学び、未知の文章に対した際にもそれを見抜くことができるようになる。 - 未知の語の意味を推測しながら、内容を理解できるように精読する。	○	○	○	○	環境問題について、スピーチ原稿を作成し、聞き手に効果的に伝わるように注意しながらスピーチする。
Reading 2 The Doughnuts	8	- 物語について、登場人物の性格や話の面白さを理解する。 - 読み取ったことを聞き手に伝わるように話したり、まとめて書いたりする。	○	○		○	物語のあらすじを、読み手に効果的に伝わるように表現を工夫しながら書く。

評価規準：a 関心・意欲・態度 b 外国語表現の能力 c 外国語理解の技能 d 言語や文化の知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
外国語	英語表現 I	2	必修	2	

使用教科書		東京書籍「NEW FAVORITE English Expression I」		使用副教材	東京書籍「NEW FAVORITE English Expression I ワークブック Task Based」
科目の目標		・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・事実や意見などを多様な観点から考え、話の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			
学習の到達目標		1 与えられた話題について、即興で話すことができる。 2 聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができ、読み手や目的に応じて、簡潔に書くことができる。 3 聞いたり、読んだりしたこと、学んだことや、経験したことについて情報や考えをまとめ、発表することができる。			
学習の進め方		・各レッスンに登場する文法項目を利用し、話したり書いたりする言語活動を中心に進める。 ・様々な場面を想定した言語活動を繰り返し行う。 ・家庭学習課題等で文法事項を確認する。			
学習の留意点		・話したり書いたりする活動を中心に行うので、積極的に取り組むこと。 ・学習した内容を必ず復習し、理解すること。 ・わからないことは必ず解決すること。（辞書を利用する、質問をする等）			
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の技能	言語や文化の知識・理解
	評価の観点	授業に関心・積極性・主体性を持って参加できる。	話す・書くを通じて情報や考えを伝えることができる。	聞く・読むことを通じて情報や考えを理解できる。	英語学習を通じて言語や文化的背景を理解できる。
	比重	30%	20%	20%	30%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・コミュニケーション活動への参加態度、発表の内容、提出物の提出頻度と内容 ○外国語表現の能力・・・定期考査の成績、コミュニケーション活動の内容、発表の内容、提出物の提出頻度と内容 ○外国語理解の技能・・・定期考査の成績、提出物の提出頻度と内容 ○言語や文化の知識・理解・・・定期考査の成績、発表の内容、提出物の提出頻度と内容			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査				夏休明け	冬休明け
														前期		後期			
														中間	期末	中間	期末		
Lesson1 動詞と文構造(1)	6																		
Lesson2 動詞と文構造(2)	8																		
Lesson3 動詞と時制(1)	10																		
Lesson4 動詞と時制(2)	12																		
Lesson5 動詞と時制(3)	14																		
Communication Workshop 1	16																		
Expression Workshop 1	18																		
Lesson6 完了形(1)	22																		
Lesson7 完了形(2)	24																		
Lesson8 助動詞(1)	26																		
Lesson9 助動詞(2)	28																		
Lesson10 受け身	30																		
Communication Workshop 2	32																		
Expression Workshop 2	34																		
Lesson11 不定詞	38																		
Lesson12 動名詞	40																		
Lesson13 分詞(1)	42																		
Lesson14 分詞(2)	44																		
Lesson15 知覚動詞・使役動詞	46																		
Communication Workshop 3	48																		
Expression Workshop 3	50																		
Lesson16 関係代名詞	54																		
Lesson17 関係副詞	56																		
Lesson18 関係代名詞・関係副詞	58																		
Lesson19 接続語句(1)	60																		
Lesson20 接続語句(2)	62																		
Communication Workshop 4	64																		
Expression Workshop 4	66																		
Lesson21 仮定法(1)	70																		
Lesson22 仮定法(2)	72																		
Lesson23 比較(1)	74																		
Lesson24 比較(2)	76																		
Lesson25 時制の一致と話法	78																		
Communication Workshop 5	80																		
Expression Workshop 5	82																		

単元名と単元内容	配当 時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
Lesson1 自己紹介	1	SV / SVC / SV0	○	○	○	○	英語で自己紹介ができる。
Lesson2 電話	1	SV00 / SV0C	○	○	○	○	英語で電話のやり取りができる。
Lesson3 手紙	1	現在形 / 現在進行形	○	○	○	○	現在形と現在進行形を使い分け ることができる。
Lesson4 インタビュー	1	過去形 / 過去進行形	○	○	○	○	過去形と過去進行形を使い分け ることができる。
Lesson5 予定説明	1	未来表現	○	○	○	○	未来表現を用いて休みの予定を話 すことができる。
Communication Workshop 1	4	5W1H	○	○	○	○	5W1Hを押さえて情報を正確に伝え ることができる。
Expression Workshop 1	1	Lesson1～5 の復習				○	
Lesson6 ショートスピーチ	2	現在完了形 / 現在完了進行形	○	○	○	○	現在完了形と現在完了進行形を使 い分けすることができる。
Lesson7 Eメール	2	過去完了形 / 過去完了進行形	○	○	○	○	過去完了形と過去完了進行形を使 い分けすることができる。
Lesson8 ブログ	1	丁寧・過去の推量・判断など	○	○	○	○	助動詞を用いて、自分の趣味につ いて発表することができる。
Lesson9 実況中継	1	過去の習慣など	○	○	○	○	助動詞を用いて過去の習慣につ いて発表することができる。
Lesson10 文化の紹介	1	受け身 / 受け身を使った慣用表現	○	○	○	○	受け身を用いて年中行事を紹介す ることができる。
Communication Workshop 2	4	順序の示し方	○	○	○	○	英語でレシピを書くことができ る。
Expression Workshop 2	1	Lesson6～10 の復習				○	
Lesson11 広告	3	to 不定詞の名詞・形容詞・副詞的用法	○	○	○	○	to 不定詞を用いて商品の広告を作 成することができる。
Lesson12 漫画	2	動名詞 / 動名詞を使った慣用表現	○	○	○	○	動名詞を用いて自分の好きなこと について発表することができる。
Lesson13 レシピ	2	形容詞化した現在分詞と過去分詞	○	○	○	○	形容詞化した現在分詞や過去分詞 を用いて、レシピを書くことがで きる。
Lesson14 招待状	2	分詞の後置修飾 / 分詞構文	○	○	○	○	分詞の後置修飾を用いて招待状を 作成することができる。
Lesson15 学校新聞	2	知覚動詞 / 使役動詞	○	○	○	○	知覚動詞・使役動詞を用いて新聞 記事を書くことができる。
Communication Workshop 3	4	理由の示し方	○	○	○	○	理由を明確にしてスピーチをする ことができる。
Expression Workshop 3	1	Lesson11～15 の復習				○	
Lesson16 取り扱い説明書	2	関係代名詞 who, which, that, whose	○	○	○	○	関係代名詞を用いて物や人の説明 をすることができる。
Lesson17 ガイドブック	2	関係副詞 where, when, why, how	○	○	○	○	関係副詞を用いて場所の説明をす ることができる。
Lesson18 新聞記事	3	関係代名詞 what / 関係詞の非制限用法 / 前置詞+関係代名詞	○	○	○	○	関係代名詞を発展的に用いて新聞 記事を書くことができる。
Lesson19 講演	2	等位接続詞 / 従属接続詞	○	○	○	○	接続詞を正しく用いて自分の考え を発表することができる。
Lesson20 ニュースレポート	2	文と文をつなぐ接続語句	○	○	○	○	文と文を正しく接続することがで きる。
Communication Workshop 4	4	具体例の示し方	○	○	○	○	具体例を示してポスターを作成す ることができる。
Expression Workshop 4	1	Lesson16～20 の復習				○	
Lesson21 スピーチ	3	仮定法過去 / 仮定法過去完了	○	○	○	○	仮定法過去、仮定法過去完了を用 いてスピーチをすることができる。
Lesson22 インタビュー	2	仮定法を用いた表現	○	○	○	○	仮定法を用いてインタビューの受 け答えができる。
Lesson23 プレゼンテーション	2	同等比較 / 比較級 / 最上級	○	○	○	○	比較表現を用いてプレゼンテーシ ョンができる。
Lesson24 パンフレット	2	倍数表現 / 比較表現の言い換え	○	○	○	○	発展的な比較表現を用いて説明文 を書くことができる。
Lesson25 ディスカッション	2	時制の一致と話法	○	○	○	○	時制を正しく理解し、直接話法・ 間接話法を用いることができる。
Communication Workshop 5	4	原因と結果	○	○	○	○	原因と結果を明確にしてプレゼン テーションができる。
Expression Workshop 5	1	Lesson21～25 の復習				○	

評価規準：a 関心・意欲・態度 b 外国語表現の能力 c 外国語理解の技能 d 言語や文化の知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
家庭	家庭総合	2	必修	2	

使用教科書		実教出版 「家庭総合パートナーシップでつくる未来」		使用副教材	大修館書店「スキルアップ家庭科 2016 家庭科資料と食品成分表」 東京書籍「家庭総合学習ノート」	
科目の目標		家庭や地域の衣生活に関する知識・技術を習得し、生活の充実・向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。				
学習の到達目標		1 人の一生を生涯発達の視点で総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。 2 生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る力と実践的な態度を身に付ける。				
学習の進め方		講義、グループワーク、実習で授業を進める。長期休業中はホームプロジェクトを実施しレポートを作成する。休業明けの授業で発表を行う。				
学習の留意点		1 日頃から、自分や家族の衣・食・住生活や社会の動きに関心を持ち、授業で学んだことを生活で実践するように心がけること。 2 実習は、危険を伴う場合があるので、事前の説明をよく聞き、班で協力し、安全に留意して真剣に臨むこと。				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	評価の観点	人の一生、家族・家庭、子どもや高齢者の生活、それらと社会との関わり、衣食住について関心をもち、その充実・向上を目指して意欲的に取り組み、実践的な態度を身に付けようとしている。	自分や家族・家庭、地域の生活に関わる課題を見だし、課題解決のため思考を深め、工夫・創造し、自分の考えをまとめ、判断できる。課題解決の学習から導き出した考えを的確に表現することができる。	自分・家庭や地域社会の生活に関する課題を解決するため、必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	自分や家族・家庭、地域社会の役割を理解し、それらの充実向上に向けて必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。衣食住、消費・環境など、家庭生活を営む上で必要な知識を身に付けている。	
	比重	25%	25%	25%	25%	
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・日々の授業や実習や長期休業課題に取り組む態度を評価する。 ○思考・判断・表現・・・日々の授業での発言、ワークシート、レポート、長期休業課題の記述で評価する。 ○技能・・・被服製作物、調理実習時の実技、ワークシート、レポートで評価する。 ○知識・理解・・・定期考査、日々の授業での発言で評価する。				

単元		頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査			
															前期		後期	
															中間	期末	中間	期末
1編	人と関わって生きる	6																
	1章 自分らしい生き方と家族	6																
	2章 子どもとかかわる	30																
	3章 高齢者とかかわる	60																
	4章 社会とかかわる	74																
2編	生活をつくる	82																
	1章 食生活をつくる	82																
	2章 衣生活をつくる	140																
	3章 住生活をつくる	180																
3編	消費者として自立する	204																
	1章 消費行動を考える	206																
	2章 経済的に自立する	224																

単元名と単元内容	配当 時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
1 編 第2章 子どもと関わる	20	・子どもを知る ・発達のすばらしさ ・子どもの生活 ・親になることを考える ・健やかに育つ環境	○				・妊娠・出産について経済的、身体的、法律的な観点から理解する。 ・分娩、家族の協力、パートナーの役割を考える。乳幼児期の心身の特徴と発達について理解する。 ・保育者としての関わり方を学び、子育てが保育者の成長につながることに気付く。
2 編 第2章 食生活をつくる	30	・人と食物の関わり ・私たちの食生活 ・栄養と食品の関わり ・食品の選び方と安全 ・食事の計画と調理	○	○			・食をめぐる課題について知り、よりよい食生活を実践できる。 ・栄養素の働きを知り、健康に過ごすための食生活に役立たせることができる。 ・調理することで食べ物になることを理解し、調理技術を身に付ける。
3 編 第1章 消費行動を考える	10	・消費行動と意思決定 ・社会変化と消費生活 ・消費者の権利と責任 ・持続可能な社会環境	○		○		・消費行動において、意思決定のプロセスを理解する。 ・消費者の権利と責任、環境に配慮した生活スタイルについて理解し、自立した消費者として主体的に行動することができる。
3 編 第2章 経済的に自立する	10	・経済のしくみを知る ・ライフステージと経済計画 ・生活設計	○		○	○	・収入と支出の実態を知り、ライフステージ全体を見通して、収入を計画的に使えるようにする。 ・現代の消費生活の特徴を理解し、自立した消費者を目指す。

評価規準：a. 関心・意欲・態度 b. 思考・判断・表現 c. 技能 d. 知識・理解